

■武田成章(斐三郎) 兵学者、洋式軍事技術者。箱館五稜郭をはじめ多くの業績、維新後も陸軍幼年学校長に。
たけだしげあき
日本外史・・1827＝ 伊予国喜多郡中村(大洲市)で、大洲藩士武田敬忠の次男に生まれる。母は新谷藩医の娘。
シボルト事件・1828＝ 1歳：

父は下級武士で薄給だった上、

・ ・ ・ ・ ・ 1836＝ 9歳：
大塩平八郎乱1837＝10歳：

蛭社の獄・・1839＝12歳：この年、父が死去、
母の実家からの援助を受けて、藩校{明倫堂}に通ううち、

天保改革終・1844＝17歳：ついに養子に出されるも、神経衰弱に罹って、実家に連れ戻され、療養、
阿部正弘首座1845＝18歳：治癒すると、医者になることを決意し、母の実家新谷藩医久岡文仲のもとに通う。

・ ・ ・ ・ ・ 1848＝21歳： 蘭方医を学ぼうと、大坂の緒方洪庵の適塾に入門、蘭書に接するうち、兵学に興味を持つようになり、

国定忠治磔・1850＝23歳： 洪庵の紹介を得て、江戸の伊東玄朴の象先堂に入門、西洋兵学を学び、佐久間象山にも師事。
象山が行った砲術演習に参加し、伊豆韭山に江川太郎左衛門を訪ねて、翻訳を助けるなどして、西洋兵学
や砲術の研究に没頭、

ペリー来航・1853＝26歳： *ペリー艦隊をみて「三浦見聞志」を著わす。幕府に出仕し、箕作阮甫に随行して長崎に行き、プチャーチン
との折衝に当る。

開国開港・・1854＝27歳： 箱館開港とともに、村垣範正らに随い箱館に着任。再来し箱館に寄ったペリーらとの交渉に出席、
安政大地震・1855＝28歳： *幕府直参に昇格。蘭訳書「築城術の原理」を参考に弁天岬砲台を独力で設計、五稜郭の設計築造にも着手、
松下村塾・・1856＝29歳： 箱館奉行所の反射炉建設を担当、<箱館奉行支配諸術調所>の発足とともに、その教授となる。

安政の大獄・1859＝32歳： 統豊治の建造した洋式帆船箱館丸(66トン)の船長、
桜田門外変・1860＝33歳：
遣欧使節・・1861＝34歳： 亀田丸船長として黒龍江、ニコラエスクに到り、
生麦事件・・1862＝35歳： パンペリ=ブレークと鉱山開発をし、帰国後、その記録「黒龍江記事」を著わした。
8月18日政変 1863＝36歳：
禁門の変・・1864＝37歳： 五稜郭が完成。江戸開成所教授に転ず。

大政奉還・・1867＝40歳： *砲兵頭となり、ナポレオン砲の国産化に成功するも、幕府崩壊、
明治維新・・1868＝41歳： 戊辰戦争が勃発すると、御役御免を願い出て、かつて佐久間象山が仕えていた松代藩に退去、松代藩兵制
士官学校教授となり、フランス式の兵法訳書を出版。

廃藩置県・・1871＝44歳： 兵部省に出仕し、
学問のすすめ1872＝45歳：
明治6年政変 1873＝46歳：
佐賀の乱・・1874＝47歳： 陸軍大佐兼兵学大教授・士官学校教官を経て、
初の民間工場1875＝48歳： 陸軍幼年学校長となり、

村田銃の普及はじめ、砲術・士官養成に尽力して、

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝53歳： 没した。